

小学校におけるキャリア教育をめぐる
9つの疑問にお答えします



自分に気付き、
未来を築く
キャリア教育

小学校におけるキャリア教育推進のために



6 職場見学などの体験活動をするのがキャリア教育ですか？

いいえ、そうではありません。
体験活動はキャリア教育を推進する取組の一つとして位置付けられます。キャリア教育は、教育活動全体を通じて、将来子どもたちが社会の一員としての責任を担い、社会的な自己実現を図ろうとする意欲や態度を継続的に育てていくものです。
体験活動には、達成感や満足感を得ることによる自信や

自己有用感の獲得、働くことや学ぶことへの意欲の向上など様々な効果が期待できます。
その効果を発揮させるためには、体験活動を一過性のものに終わらせるのではなく、ねらいを明確にして、他の教育活動と関連付けたり、事前事後の指導を工夫したりすることが重要です。

7 キャリア教育のねらいは4つの能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）を伸ばすことでしょうか？

これら4つの能力は、一般的に、社会的自立を図る上で必要な能力であると考えられ、発達段階を追って育成されるものです。これらは、キャリア教育を通して身に付けさせる様々な能力の重要な例としてとらえることができます。

各学校では、これら4つの能力を参考にしながら、学校や地域の特性、子どもたちの実情に応じて、身に付けさせる能力を検討することが大切です。検討の結果について学校全体で共通理解を図ることにより、効果的にキャリア教育を進めることができるはずで

8 キャリア教育の評価はどうすればよいですか？

二通り考えられます。
育 たい資質や能力、態度を意識しながら「子どもの変容・成長」を評価すること、そして、それに基づいて「活動そのもの」を評価することです。
前者については、まず教師が一人一人の育ちをしっかりと見取っていくことが大切です。ポートフォリオやアンケート、評価カード等を工夫しながら、一人一人のよさや変容

を把握し、その結果はできるだけ子どもに返していきたいものです。また、自己評価によって子ども自身が自らの成長を実感できるようにすることも大切です。
後者については、このような子どもの成長を促した要因は何か、あるいは、成長に結び付かなかった理由は何かに焦点を当てながら実践を振り返り、キャリア教育の取組をPDCAサイクルの中で改善していくことが必要で

9 私が勤務する学校ではまだキャリア教育に取り組んだことがありません。キャリア教育はどのように始めたらよいですか？

まずは、一人一人の先生方がキャリア教育を正しく理解することから始めましょう。そのためにも、このパンフレットを職員会議や学年会などで是非活用してください。そして、学校全体でキャリア教育に対する共通理解を図り、それを基に、担当学年や各教科等において、どのようにキャリア教育に取り組めるかを検討し、でき

ることから実践に移してください。
キャリア教育は、目新しいことからスタートさせる必要はありません。各学校での教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、積極的に取り組んでいきましょう。国立教育政策研究所・生徒指導研究センターのホームページに掲載の実践事例なども是非参考にしてください。

【作成協力委員】 ※職名は平成21年3月1日現在

小川信治 神奈川県川崎市立荻宿小学校教諭
川崎友嗣 関西大学社会学部教授
佐々木敬朗 千葉県千葉市立幕張本郷中学校教諭
塚田薫 茨城県城里町立环小学校教諭
冨本保明 東京都品川区立小中一貫校伊藤学園教諭

西田健次郎 兵庫県教育委員会義務教育課指導主事
二見明子 神奈川県大和市教育委員会教育研究所指導主事
谷内口まゆみ 富山県氷見市立宇波小学校教頭
和田るみ子 岐阜県岐阜市立早田小学校教諭
渡辺三枝子 筑波大学特任教授（キャリア支援室長）

（敬称略・五十音順）

自分に気付き、未来を築く キャリア教育

— 教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、系統的にキャリア教育に取り組み、進路の選択・探索にかかる基盤を形成する —

キャリア教育が目指すもの

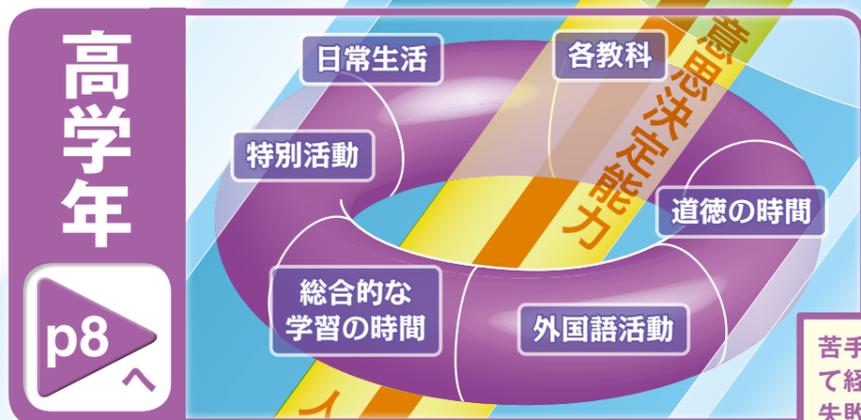
- ▶ 一人一人のキャリア発達を支援します
- ▶ 学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、学ぶ意欲を向上させます
- ▶ 将来の社会的自立・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育てます
- ▶ 望ましい勤労観・職業観を育てます

キャリア教育の定義

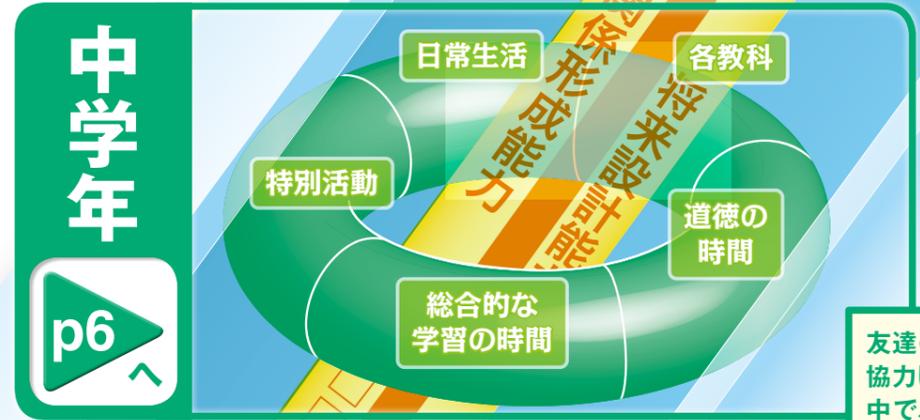
キャリア教育は「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義され、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」とも言われています

小学校におけるキャリア教育の目標

- ▶ 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- ▶ 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- ▶ 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- ▶ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成



苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする



友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする



自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信を持って活動できるようにする

キーワード 「キャリア」

「キャリア」の語源

「キャリア」(career) は中世ラテン語の「車道」を起源とし、英語で、競馬場や競技場におけるコースやそのトラック(行路、足跡)を意味するものであった。そこから、人がたどる行路やその足跡、経歴、遍歴なども意味するようになり、このほか、特別な訓練を要する職業や生涯の仕事、職業上の出世や成功をも表すようになった。(中略)
 なお、遺伝子の保有者、伝染病の保菌者などを指す「キャリア」(carrier) は、運ぶ(carry)からの派生語であり、違う語源の単語である。
 (厚生労働省「キャリア形成を支援する労働政策研究会」報告書(平成14年7月)より)

「キャリア」の定義

個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積
 「キャリア」とは、一般に生涯にわたる経歴、専門的スキルを要する職業についていることなどのほか、解釈、意味付けは多様であるが、その中でも共通する概念と意味がある。それは、「キャリア」が、「個人」と「働くこと」との関係の上に成立する概念であり、個人から切り離して考えられないということである。また、「働くこと」については、職業生活以外にも家事や学校での係活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることなどから、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広くとらえる必要がある。
 (文部科学省「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引」(平成18年11月)より)

p14 掲載の「キャリア教育の「キャリア」とは何ですか」も併せてお読み下さい

好きなこといっぱい できること いっぱい 学校って楽しいな

低学年の
キャリア教育

— 自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら、意欲と自信を持って活動できるようにする —



展開例1 ▶ 生活科(1年生)「学校たんけん」[学習指導要領上の「内容(1)」]

ねらい ● 学校にいる人々に関心を持ち、進んでかわりながら楽しく遊びや生活ができるようになる

活動内容	指導上の配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校探検をする <ul style="list-style-type: none"> ・施設の様子を見る ・学校にいる人々とかわる 例) 学校で働く人の仕事ウォッチング 例) あくしゅ大作戦…学校にいる人々と握手をして回る 例) インタビュー大作戦 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語科等と関連させ、合科的な指導をすることが大切です ○ 「もの」だけでなく「人」にも目を向け、いろいろな人とかわる楽しさを味わうことができるようにしよう
<p>先生に「ありがとうございました」と言ったら、「よい言葉遣いだね」と褒められたよ。明日もちゃんとあいさつをしよう。</p>	<p>学校にはいろいろな人がいて、僕たちのために働いてくれているんだな。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 調べてきたことを発表し合う <p>うちのお父さんやお母さんがどんなお仕事をしているのか聞きたくなったよ。</p> <p>息子が夫に「パパは会社で何をしているの」と真剣に聞いていました。夫もうれしそうに答えていました。入学して間もないのに、とてもたくましく感じました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りの仕事への興味を高め、多くの人々に支えてもらっていることに気付かせるようにしよう ○ それぞれの教職員の仕事の詳細を理解することがねらいではありません ○ 学校で働く人に親しみを持って接することをねらって取り組みましょう

ポイント ● 学校全体で共通理解を図り、教職員から積極的に話しかけるなどの協力を得られるようにしておきましょう
● 学級→学校→通学路→地域へと学びの対象や活動を広げていく大きな流れを意識して実践しましょう

展開例2 ▶ 道徳の時間を要とした総合的な取組例(2年生)

ねらい ● 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う 1-(2)

日常的な活動	道徳の時間	教科・特別活動など
<ul style="list-style-type: none"> ● 「心のノート」の活用と自分の歩みノート(ポートフォリオ)作り ● 帰りの会での「きらきら見つけ」(友達のよいところを見付けよう) ● 自分のよさを生かした係活動や当番活動、清掃活動 ● 異年齢集団活動 ● 飼育・栽培活動 	<p>6月 あきらめないで 1-(2)</p> <p>10月 がんばっているね わたしのしごと 1-(2)</p> <p>2月 さいごまで 1-(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級活動「係を決めよう」 ○ 生活科「野菜を育てよう」 ◇ 地域運動会への参加 ○ 「ワーク大作戦Ⅰ」 夏休み中に家でお手伝いをしよう ○ 学級活動「係の発表会をしよう」 ○ 生活科「まちたんけん」 ◇ 地域文化祭(音楽祭)への参加 ○ 生活科「めざせ! お手伝い名人」 ○ 「ワーク大作戦Ⅱ」 冬休み中に家でお手伝いをしよう ◇ 校内なわとび集会 ○ 生活科「大きくなったぼく・わたしーできるよになつたよー」 ○ 学級活動「もうすぐ3年生」
<p>はじめはいやだったけれど、草を取っているうちに心がどんどんパワーアップしてきました。ぼくは、最後まで頑張った本当によかったと思いました。</p>	<p>目標に向かって努力する態度の育成</p>	

ポイント ● 豊かな体験活動との関連を図りながら、体験を振り返ることができるようにします
● 各教科等との関連を図りながら、道徳の時間を積み重ねましょう

自分と 友だちと みんな いっしょに

中学年の
キャリア教育

— 友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする —



学級生活の様々な場面で、自分たちで決まりを作って守る力を育てましょう
【例】●係 ●日直 ●清掃 ●給食当番
●朝の会・帰りの会 ●異年齢集団活動

協力し合える人間関係を築く態度を育てましょう
自発的な活動への欲求の高まりなどを積極的に生かしましょう
【例】●縦割り行事 ●係の仕事発表会
●学級集会 ●所属クラブの決定
●地域清掃



探究的な活動を通して、地域の人々の暮らしや生き方を学ぶ機会を設けましょう
学び方やものの考え方を身に付けるとともに、協同的に取り組むことができるようにしましょう

各教科での学習が、日常生活や将来の生き方と関連していることに気付かせる機会を積極的に設け、学ぶ意欲につなげましょう
【例】●「まちたんけん」「昔の暮らし」「工場・お店の見学や調査」「消防署や警察で働く人たち」「水道」(社会)
●「大きくなってきたわたしの体」(体育)
●「わたしの研究レポート」(国語)



身近な人々と協力し、助け合う体験を大切にしましょう
【学習指導要領上の関連深い内容項目の例】1-(2)(5)、2-(2)(3)、3-(1)、4-(1)(2)(4) など
【育てたい力の例】●自分の特徴に気づき、よい所を伸ばそうとする
●友達や家族など身近な人々の立場に立って考えることの大切さが分かる
●集団の規則や遊びのきまりの意義を自覚し、集団での目標達成にかかわり、協同作業ができる

展開例1 ▶ 社会科(3年生)「まちたんけんをしよう」

ねらい ●身近な地域を観察・調査し、地域の特徴を捉え、地域社会の一員としての自覚を持つようにする

活動内容	指導上の配慮事項
●地域の自慢を紹介し合う ・××市の人物・自然・施設や建物などの地域の中で自慢できるところを紹介する 小さい頃から住んでいるのに、知らないことが多いと思った。これからは、周りのことを少し気にしながら歩いたりしよう。	○発表したことの共有化を図りましょう 友達の意見を聞いて、初めて知ったことがたくさんあって勉強になったと思った。もっと調べてみたいと思った。
●学校の屋上からながめる インタビューにより情報を収集。情報収集力の他、人とかがわる楽しさも体験。	
●まちを探検する ・探検する計画を立てる ・学校の周りを探検する ・グループ毎に、興味を持ったところを探検したりしてさらに詳しく調べる	○自分の計画に沿って実行し、達成感が味わえるようにしましょう ○地域の人とかかわる体験を大切にしましょう
●まちたんけんの発表会をする	○まちへの理解を深め、まちのために自分たちができることを考える機会を設けてみましょう
●自分たちのまちについてまとめる	

ポイント ●総合的な学習の時間における探究的な活動への展開や各教科・道徳との関連を持たせましょう

展開例2 ▶ 総合的な学習の時間・道徳の時間(4年生)「 $\frac{1}{2}$ 成人式を開こう~大人になるっていいね~」

ねらい ●10年間の自分の成長を振り返ることを通して、生命の尊さを感じるとともに、よりよく生きていこうとする気持ちや態度を持てるようにする

活動内容	指導上の配慮事項	関連する他の教育活動例
●20歳の人と語る会を行う 赤ちゃんの時から今まで、家族だけではなく、いろいろな人にお世話になって大きくなってきたんだなあ。これからどんな大人になろうかな。	○20歳になる卒業生から、今の生活のことや大人になって思うことについて直接話を聞くことで、将来について考えるきっかけにしましょう 大人になるってどんなことがわかったよ。子どもの時の夢をかなえた人もいるよ。	道徳の時間 内容項目 3-(1) 「ひとつしかないいのちを大切に」 (心のノート)
●成人式に参加する20歳の自分を想像し、発表する	○成人式や20歳の自分について、イメージを広げさせましょう	道徳の時間 内容項目 1-(5) 「今の自分をみながら みんなの中で自分を生かそう」 (心のノート)
●自分の10年間の成長について調べ、自分史をまとめる	○自らの心身の成長や、自分に影響を与えた出来事などに目を向けさせながら、自分の特徴に気付かせましょう	体育科 「育ちゆく体とわたし」
●20歳の自分をイメージし、ドリームマップを作る	○家族へのインタビューなどを通して、自分の命の大切さを実感させるようにしましょう ○好きなことや自分のよさを生かすなど、自分らしい生活や生き方についての考えを深められるようにしましょう	国語科 「材料の選び方を考えよう」
● $\frac{1}{2}$ 成人式をどのような会にするか話し合い、準備する	○成長を喜び合い、将来を応援し合える、心温まる会になるような工夫を促しましょう 例)・思い出の品の紹介 ・かけがえのない人の紹介 ・家族への感謝の手紙の朗読 ・10年後の自分への手紙の朗読 ・将来の夢についての発表 等	国語科 「話し合って決めよう」
● $\frac{1}{2}$ 成人式を行う	○役割分担を明確にして、自分たちの手で式をつくりあげた実感が持てるように支援しましょう	
●振り返りをする	○よりよく生きていこうとする気持ちを高められるようにしましょう	

ポイント ●家族や友達などのかかわりの中で、自分の言いたいことを伝えたり、互いの良さを認め合ったりすることなどを通して、自己肯定感を味わわせましょう

挑戦する やりぬく 夢・希望を広げる

— 苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが 集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする —

【自ら課題や問題を見付け、自分たちで解決できる意識を持たせましょう】
【例】●係 ●日直 ●清掃 ●給食当番
●朝の会・帰りの会 ●異年齢集団活動

【異年齢集団の活動に進んで参加し、高学年としての役割と責任を果たそうとする態度を育てましょう】
【中学校での生活や将来の生き方を話し合うなどの活動を積極的に取り入れましょう】
【例】●縦割り行事 ●学級活動計画の作成 ●児童会集会
●クラブ活動の運営 ●ボランティア活動



【社会に生きる一員として何をすべきか考えられるような探究的な活動を取り入れましょう】
【地域社会にかかわる喜びやものづくりの楽しさを実感できるような体験活動を取り入れましょう】

日常生活

各教科

【各教科での学習が生活や職業と関連することの理解を深め、互いに学び合い高め合える態度を育てましょう】

【例】●伝記を読み、自分の生き方について考える（国語）
●産業と国民生活との関連について理解する（社会）
●電気の働きを利用した道具が生活を支えていることを理解する（理科）
●自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付く（家庭）

特別活動

高学年の
キャリア 発達課題

①自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。
②集団の中で自己を生かす。

③社会と自己のかわりから、自らの夢や希望をふくらませる。

道徳の
時間

【自己肯定感をはぐくみ、未来への夢や希望を持つことができる心を育てましょう】

【学習指導要領上の関連深い内容項目の例】
1-(2)(6)、2-(2)(3)(4)(5)、3-(1)、4-(1)(2)(3)(4)(6) など
【育てたい力の例】
●思いやりの気持ちを持って共によりよく生きようとする
●自己に対する肯定的な自覚を深め、未来への夢や希望を持つ
●集団生活の中での自分の役割や責任を理解して行動し、全体の向上に役立つとする態度を持つ

総合的な
学習の時間

外国語活動

【日本と外国との言語や文化の比較を通して、多様なものの方や考え方があることを実感できるような体験的なコミュニケーション活動を取り入れましょう】

展開例1▶特別活動(5・6年生)「委員会活動」

ねらい ●委員会活動の大切さを知り、進んで取り組むことができるようにする

活動内容	指導上の配慮事項
●委員会活動で身に付く力は何か考え、話し合う	○各委員会に所属している委員に目的や活動内容を発表させ、共通している部分から委員会活動の目的について気付かせる
●委員会活動の役割や責任を理解し、自分の可能性を広げられるような委員会を選ぶ	○全校児童がより楽しく学校生活を送り、自分たちのよさを伸ばすようにするために、委員会活動があることに気付かせる
●委員会活動の進め方を調べる ①活動の計画について ②活動の目的と役割について ③役割分担について	○自分たちが行っている委員会活動全体を見直し、全校児童が豊かな学校生活を送るためには、どのような活動を行えばよいかを考え、進め方を調べさせる
それぞれの委員会での活動	
●「委員会活動カード」を作成して、自分が行った仕事を振り返る	○「委員会活動カード」に反省点や改善点を記入させ、児童が委員会活動に自ら進んで取り組むようにさせる

児童会活動の意義を理解し、自分たちでできることに責任をもって取り組むことで、自主性と社会性を育てる

【道徳の時間】
4 主として集団や社会とのかかわりに関すること
(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。
(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。

本活動と関連した学習

【総合的な学習の時間】
☆地域と連携した学習
☆ボランティア活動の取組
☆様々な職業に関する学習

ポイント ●委員会活動を通して、学校のリーダーとしての役割を担うとともに、学ぶことや働くことの尊さを実感させましょう

展開例2▶総合的な学習の時間(6年生)「マイグッドライフ」

ねらい ●将来の夢や希望を持ち、それらの実現を目指して努力することができるようにする

活動内容	指導上の配慮事項
●最高学年としての目標を立てる 一年間の自分の生活を見直し、目標を立てさせたことで、意欲的に学校生活に取り組むようになりました。	○自分のやりたいことを進んで実践し、努力して成果を出せるような目標を考えさせる ○道徳1-(6)の内容と関連させる
●各分野で活躍されている人の生き方を調べたり、自分が一流と思う人からインタビューをしたりして、人生の先輩方の生き方を参考に、自分の将来の目標を立てる 家族にインタビューし、これまで知らなかったことを知り、生き方の目標となり、あこがれの存在となりました。	○地域の方や身近な人で、ある分野で活躍されている方をゲストティーチャーとして招く
●様々な職業について調べ、自分がやってみたいと思う仕事を見付ける 具体的な将来設計を立てるのではなく、あこがれとする職業を持ち、今、しなければならないことを考えさせるようにしました。	○自分がやってみたい仕事に就くために今の自分に必要なことは何かを考えさせる ○社会科と関連させる
●中学校調べをして、中学校での学習や生活、学校行事、部活動などについてまとめる	○子どもたちが進学を予定している中学校の様子が分かるような資料を準備する
●学校公開などに行き、中学生へインタビューしたり、中学校の様子を見学し、小学校生活と中学校生活の違いや中学校での職場体験の内容などについてまとめる 中学校を見学して、小学校との違いが分かり、これまでの不安がなくなりました。	○中学校と連絡を密に取り、先生方や中学生にインタビューをさせてもらえるようお願いし、許可を得ておく
●あこがれとする自分の将来の姿を考え、自分が中学校入学に向けて頑張りたいことや中学校での自分の姿のイメージをまとめ、発表し合う 卒業式で一人一人がこれから自分が目指す生き方を発表したことで、これからの生活に意欲がわきました。	○友達の考えを聞いたり、意見交換したりすることを通して、中学校生活への期待を高められるようにする

ポイント ●今の自分が将来につながっていくことを意識させながら活動に取り組みせましょう

掲載事例は、国立教育政策研究所生徒指導研究センター『キャリア教育体験活動事例集・第1分冊』（平20年）から一部抜粋し、文章等を部分的に変更したものです。

神奈川県川崎市立^{かりやど}荻宿小学校

▶キャリア教育の視点からの様々な教育活動の見直しと、
地元商店街との連携による体系的な実践

1年生 学校ではたらく人、おしえてあげる (生活科 10時間)

学校生活に慣れた9月、学校で働く人々についての学習を計画した。用務員、事務職員、給食調理員、栄養士、養護教諭などに、どんな仕事をしているのか、インタビューした。

そして、グループごとに分かったことを発表した。この学習の後には学校で働く人々の名前を呼んであいさつをしたり、話しかけたりするようになった。

2年生 わくわくドッキン かりやどランド (生活科10時間 特別活動2時間)

子ども祭り「ファンタジーフェスティバル（2年生・秋の学校行事）」で、1年生と協力して、自分たちで遊びやルールを考え、お客さんが楽しめるような遊びのコーナーをグ

ループで分担して作った。当日は幼稚園、他学年、地域の人々等、様々な立場の人とかかわりを持つことができた。

3年生 地域の人とあくしゅⅠ — 商店街でお手伝い —

(総合的な学習の時間 25時間)

町へ出かけ、店、工場、公共施設、交通などの町の様子や特徴について調べる中で、子どもが自分の住む地域のことにあまり目を向けていないという実態が見えてきた。そこで、地元の商店会の協力を得て商店での体験学習を計画し、社会科の学習を踏まえて展開した。

商店での手伝い体験は、学校や家族以外の人とかかわり方を学ぶ場としてとらえられる。商店の人やお客さんとの触れ合いを通して、自分の町のことを理解し、地域の一員としての自覚をはぐくむとともに、商店で働く

人の様子や工夫・努力に実際に触れることで自分の役割を果たすことの大切さや相手のことを考えた言動の重要性などを実感し、自分の生活に生かすことを目指している。

- 商店や手伝いについて調べよう（9時間）
 - 手伝いする商店を決めよう（3時間）
 - 商店で手伝いをしようⅠ・Ⅱ（7時間）
 - 体験したことをまとめよう（6時間）
- 本単元を通して、子どもたちは達成感や自己有用感を得ることができ、地域の人々の暮らしや仕事への関心を高めることができた。



広島県庄原市立^{さいじょう}西城小学校

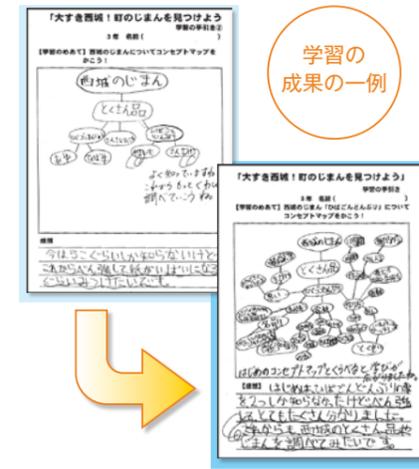
▶地域の食文化を生かしたキャリア教育の取組と、学習成果の把握の工夫

3年生 西城のじまんを見つけよう — 「ひばごん丼」を作ろう —

(総合的な学習の時間 17時間)

1970年に地元に出没したとされ、ちまたを騒がせた謎の生き物「ひばごん」から命名された、地元の食材たっぷりの創作料理「ひばごん丼」。ゲストティーチャーを招いて「ひばごん丼」を作ることを通して、地域の食文化への理解と地域への愛着心を高め、仕事に対する理解を深める活動を展開した。

国語科・社会科等との関連を図りつつ、「西城の地域じまんマップを作ろう」「ひばごん丼のひみつをさぐる」等に合計9時間を充て、「ひばごん丼」づくりに2時間を充てた。これらの学習のまとめとして「学びをひろげよう」（6時間）により、パンフレットづくりを行った。



東京都三鷹市東第四小学校

▶社会教育施設を活用したキャリア教育の取組と、課題探究型プログラムへの発展

5年生 写真展から社会をのぞこう (総合的な学習の時間 20時間)

地域の人々とかかわりを通して社会を身近に感じ、仕事をするの意味や楽しさ、苦労や願いなど実感の伴った理解につなげる単元。

三鷹市美術ギャラリーにおいて開催される写真展を通して、美術館が企画する展覧会には多くの職業の方がかわり、様々な思いや苦労、準備を経て企画されていくことを知り、生き方を学ぶ活動である。

はじめに、テーマを追究し写真展を企画する学芸員の方や、設営の段階において写真展の開催を裏から支える様々な職業の方々（造作会社、デザイン会社、印刷会社）とかかわりの場を設け、写真展やそれにかかわる職業に興味を持たせた。同時に、子どもたち自身に校内で写真展を開く計画

を立案させる中で、校内写真展と自己とかかわりや見通しを持たせ、チャレンジする意欲の継続につなげた。この過程では、学芸員や写真家の方からアドバイスを得ながらテーマと役割を決め、それぞれに課題解決できるようにした。



新しい学習指導要領での キャリア教育の推進

平成20年3月28日、新しい小学校学習指導要領が告示されました。小学校では、平成21年度からの移行措置を経て、平成23年度から完全実施されます。なお、総則や道徳、総合的な学習の時間、特別活動については、平成21年度から先行実施されます。新しい学習指導要領では、これまで以上に小学校におけるキャリア教育の推進が求められています。

学習指導要領新旧対照表 (一部抜粋)

平成20年3月28日改訂	平成10年12月14日改訂
第3章 道徳 第1 目標 道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。 道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。	第3章 道徳 第1 目標 道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。 道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。
第5章 総合的な学習の時間 第1 目標 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。	第1章 総則 第3 総合的な学習の時間の取組 2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。 (1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。 (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。 (3) 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。
第6章 特別活動 第1 目標 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。	第4章 特別活動 第1 目標 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

※下線部は新しく追加された記述

それぞれの教育活動の特性を生かしながら 系統的なキャリア教育を実践する



学習指導要領改訂までの主な流れ

改訂までの流れ	特に重要な条文・内容など	キーワード
平成17年2月 学習指導要領の見直しに着手 (文部科学大臣からの要請)	I 教育基本法 ※下線部：改正による主な変更箇所 第2条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。 1 (略) 2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。 3 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。 4～5 (略)	●自主・自律の精神 ●職業・生活との関連の重視 ●社会の形成への参画
平成18年12月 教育基本法改正	II 学校教育法 第21条 義務教育として行われる普通教育は、教育基本法(平成十八年法律第二十号)第五条第二項に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。 1 学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。 2～3 (略) 4 家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養うこと。 5～9 (略) 10 職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。	●学校内外の社会的活動の促進 ●職業についての知識と技能・勤労を重んずる態度・進路選択能力
平成19年6月 学校教育法改正	III 中央教育審議会答申 (平成20年1月17日)(抜粋) 社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項—キャリア教育 近年の産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず子どもたちの進路をめぐる環境が大きく変化している。このような変化の中で、将来子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実させる必要がある。 他方、特に、非正規雇用者が増加するといった雇用環境の変化や「大学全入時代」が到来する中、子どもたちが将来に不安を感じたり、学校での学習に自分の将来との関係で意義が見出せず、学習意欲が低下し、学習習慣が確立しないといった状況が見られる。さらに、勤労観・職業観の希薄化、フリーター志向の広まり、いわゆるニートと呼ばれる若者の存在が社会問題化している。 今後更に、子どもたちの発達段階に応じて、学校の教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の充実に取り組む必要がある。生活や社会、職業や仕事との関連を重視して、特別活動や総合的な学習の時間をはじめとした各教科等の特質に応じた学習が行われる必要がある。特に、学ぶことや働くこと、生きることを実感させ将来について考えさせる体験活動は重要であり、それが子どもたちが自らの将来について夢やあこがれをもつことにつながる。具体的には、例えば、 ●特別活動における望ましい勤労観・職業観の育成の重視、 ●総合的な学習の時間、社会科、特別活動における、小学校での職場見学、中学校での職場体験活動、高等学校での就業体験活動等を通じた体系的な指導の推進、 などを図る必要がある。	●勤労感・職業観 ●学習意欲の向上・学習習慣の確立 ●体験活動の重視
平成19年11月 中央教育審議会「審議のまとめ」		
平成20年1月 中央教育審議会「答申」		
改訂		

POINT 今後10年間の教育改革の方向性とキャリア教育

平成20年7月1日、「教育振興基本計画」が閣議決定されました。この計画は、教育基本法に示された教育の理念の実現に向けて、今後10年間を通じて目指すべき教育の姿を明らかにするとともに、今後5年間(平成20～24年度)に取り組むべき施策を総合的・計画的に推進するために、政府として初めて策定したものです。この計画でも、キャリア教育の推進が強く求められています。

「今後10年間を通じて目指すべき教育の姿」より

義務教育修了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる。
 幼児期から義務教育修了までの教育を通じて、学校、家庭、地域が一体となって、基本的な生活習慣の習得や社会性の獲得をはじめとする発達段階ごとの課題に対応しながら、すべての子どもが、自立して社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、その基礎となる力を育てるとともに、国家及び社会の形成者として必要な基本的資質を養う。

「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」より

子どもたちの勤労観や社会性を養い、将来の職業や生き方についての自覚に資するよう、経済団体、PTA、NPOなどの協力を得て、関係府省の連携により、小学校段階からのキャリア教育を推進する。特に、中学校を中心とした職場体験活動や、普通科高等学校におけるキャリア教育を推進する。

小学校におけるキャリア教育をめぐる9つの疑問にお答えします

なぜ小学校からキャリア教育が必要なのですか？

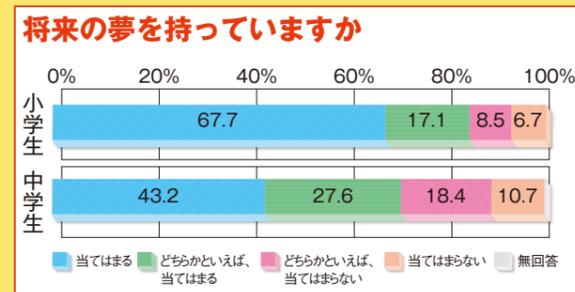
小 学校段階は、社会人として必要な自立性や社会性を育て、一人一人の子どもたちがそれぞれの進路を探索・選択する力を培う上で、重要な基盤を形成する大切な時期だからです。

ただし、小学校におけるキャリア教育は、具体的な将来設計を立てさせることを目指すものではありません。学級・学校・家庭・地域社会等における様々な活動を通して、将来設計の基盤となる「夢や希望」をはぐくみ、目標の達成を目指して工夫し努力することの大切さを体得させ、自信や有用感を高める機会を計画的に設けていくことが大切です。子どもたちが将来に不安を感じたり、学校での学習に自分の将来との関係で意義が見いだせず、学習意欲が低下し、学習習慣が確立しないといった問題が指摘される今日、キャリア教育の必要性はますます高まっています。

また、特に小学校では、豊かなキャリア教育の実践によって、家族や友達、身近な地域の人々への関心や信頼感を高め、多角的な視野から他者を理解するための基礎となる力を養い、人々が自らの責任を果たしつつ相互に支え合っている集団や社会を築いている事実を気付かせる必要があります。そして、子どもたち一人一人がそのような集団としての学校や家庭、ひいては社会の重要な一員であることを、実感を持って理解できるようにすることが重要です。

文部科学省による「平成20年度全国学力・学習状況調査」が示す次の結果も、小学校におけるキャリア教育の更なる充

実の必要性を示していると言えるでしょう。



「将来の夢を持っていますか」という設問に対して小学生の約68%が「当てはまる」と回答したのに対し、中学生では約43%と25ポイントも減少しています。この結果からは、心身の成長にしたがって、幼い頃に描いた夢が空想的であったことに気付くものの、それに代わる目標を見いだせずにいる中学生の姿が浮かび上がってくるようです。

小学校では、現実社会で活躍する多様かつ魅力ある大人に接する機会を設けたり、様々な職業の存在を気付かせたりしながら、広い視野から社会や職業をとらえる力を培いたいものです。空想的な夢に代わって、自らの将来につながる希望や目標を描くための力は、小学校からの継続的なキャリア教育によってはぐくまれるものではないでしょうか。

参考資料 小学校からのキャリア教育の重要性については、すでに様々な指摘が見られます。ここではその一例として『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書—児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために—(平成16年)における指摘を引用します。

小学校段階から、発達段階に応じて、社会の仕組みや自己と他者あるいは社会の関係を理解できるようにするとともに、そうした理解の上に立って、自分の力で自分の人生をつくるのだという意識を持たせたり、仕事に対する責任感や強い意志を涵養したりするなど、将来の精神的・経済的自立を促したりするための取組を積極的に進めていく必要がある。こうした取組は、とかく無力感や閉塞感に捕らわれがちで、享楽や快楽のみを追う傾向のある現代の子どもたちの性向を改めていく上でも極めて大きな役割を果たすと考えられる。

キャリア教育の「キャリア」とは何ですか？

キ ャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議は、「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」と定義しました(平成16年)。ここでは、特に重要な「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖」に注目して説明します。

このパンフレットをお読みの先生方も、「教員」として学校に勤務されると同時に、例えば、お子さんにとっては「父親あるいは母親」であり、「妻または夫」としての顔も持ち、ご両親から見れば「娘あるいは息子」であり、さらに「町内会の役員」や「ボランティアサークルの会員」ということもあるでしょう。こういった様々な立場や役割は、それぞれ相互に密接に関連し合い、また、生涯の中で多様に変容しつつ

連鎖とつながっています。これらの立場や役割の連鎖を総称して「キャリア」と言います。

子どもたちも、家庭において「息子や娘」であると同時に、「地域のスポーツチームの一員」などの立場や役割を持つ子もいるでしょう。また学校でも、「小学校3年生」であるにとどまらず、学級での「飼育係」としての役割もあるでしょうし、時には「給食当番」としての役割も果たしているかもしれません。現在、期待されるそれぞれの立場や役割にどのように取り組んでいるのか、それらを踏まえて将来の役割(上級生や中学生になってほしいこと・すべきこと等)にどのように取り組もうとしているのか。その時々、それぞれの立場や役割の重要性を自ら判断でき、また、それらに積極的に取り組むことができるよう、一人一人の成長・発達を支援することは、キャリア教育の重要な課題の一つです。

「キャリア教育は新しい教育活動ではない」と言われますが、これは「これまでどおりの教育でよい」ということですか？

文 いいえ、そうではありません。文部科学省による『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引』(平成18年)には、「キャリア教育は、必ずしも新しい教育内容を導入しようとするものではない」と記されていますが、それに続けて、次のように指摘されていることを見落としてはならないと思います。

(キャリア教育は)教育活動の領域・単元の1つではなく、教育活動全体に働きかけていくという見方が大切である。小学校では、既存の教育活動のなかにキャリア教育と関連する内容が数多くある。それらをキャリア教育の視点でとらえ直すことで、それぞれの活動の関連が明確になる。学級担任がすべての教科を見渡しやすいという小学校の利点を生かし、キャリア教育の視点を意識して取り組むことが大切である。

小学校では、各教科や道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動において、子どもたちのキャリア発達を促す内容が多くあります。それらの機会を計画的に活用していきましょう。また、それぞれの教育活動の中に組み入れられてきたキャリア教育の言わば「断片」を振り返り、紡ぎ、つなげ、子どもたちの認識や視野を広げていく働きかけを、道徳の時間や学級活動、総合的な学習の時間などにおいていくことが大切です。

もちろん、学校や地域の特性、子どもたちの実情に応じて、新しい教育内容や活動を加え、キャリア教育をより豊かにする工夫もまた大切であることは言うまでもありません。けれども、まずは既存の教育活動をとらえ直し、その力を十分に生かすことが必要でしょう。



小学校でのキャリア・カウンセリングはどのようにしたらよいですか？

キ ャリア・カウンセリングという言葉から、中学3年時、高校3年時に行われる卒業直後の進路決定の相談を思い浮かべるとしたら、小学校ではほとんど実践する必要はないでしょう。実践に入る前に、キャリア・カウンセリングを正確に理解しておくことが大切です。

学校におけるキャリア・カウンセリングは、発達過程にある一人一人の子どもたちが、個人差や特徴を生かして、学校生活における様々な体験を前向きに受け止め、日々の生活で遭遇する課題や問題を積極的・建設的に解決していくことを通して、問題対処の力や態度を発達させ、自立的に生きていけるように支援することを目指しています。これはキャリア教育の目標と同じです。ただ、キャリア・カウンセリングは「対話」、つまり教師と児童・生徒との直接的なコミュニケーションを手段とすることが特徴です。

小学校でのキャリア・カウンセリングの実践は広義と狭義の両面から考える必要があります。

広義の実践とは、小学校がこれから続く学校生活の基盤として、学校や教師への信頼、そして学ぶことへの喜びを体験する大切な時期であるという認識に立って、教師がそれぞれの子どもたちの存在を尊重して温かい人間関係を築くことを意味します。子どもたちとの温かみで教育的な人間関係を築くためには、教師は一人一人の子どもとのコミュニケーションを図る能力を向上させることが不可欠となります。

狭義の実践とは、子どもたちが新たな環境に移行したり未経験の学習課題に取り組む際には不安も大きく問題を引き起こしやすいことを意識し、単に不安の解消や問題解決だけでなく、新たな環境や課題に勇気を持って取り組めることを目的とした個別の支援のことです。キャリア発達支援そのものと言えるでしょう。例えば、小学1年生は初めての学校生活に不慣れのために課題や問題を体験する時期ですし、どの学年でも学年始め・学期始めや学年末・学期末には新学年や新学年への適応で問題を体験する時期です。特に6年生は中学校進学という大きなステップを乗り越える準備のときでもあるので、中学校へ勇気を持って進めることを目指した個別支援は不可欠です。



よく「キャリア教育の視点で」と言いますが、この「視点」とは何か教えてください。

子 どもたちが、将来、社会的自立・職業的自立を図るためには、小学校、中学校、高等学校において、一人一人が発達課題を段階を追って達成していくことが重要です。キャリア教育の「視点」とは、将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長

や発達を促進する見方を持つことです。小学校の各学年における様々な教育活動を通して、どのような資質や能力、態度を育てていけばよいのかを検討し、キャリア教育としてのねらいを意図的・計画的に設定していくことが大切になります。